

憲照先生の手本ア・ラ・カルト
(à la carte)

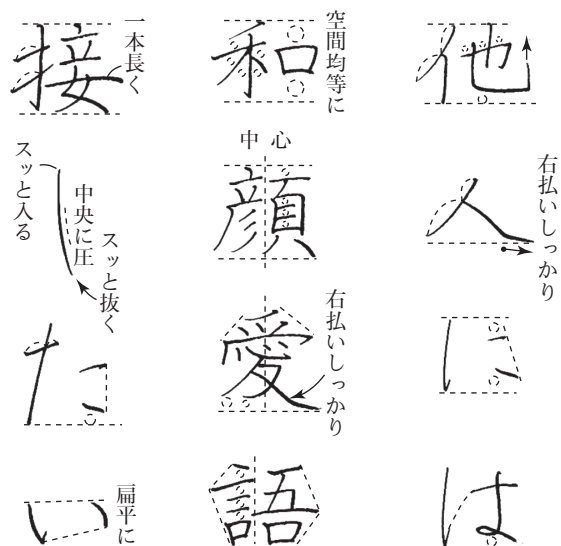
締切り 二月二十二日 (必着)

昭和61年3月

		他
	和	人
	顔	に
	愛	は
接	語	
し	で	
た		
い		

つけペン・墨汁使用

〔解説〕



- ◎ 本会は、今年で創立六十六周年を迎えます。昨年はコロナ禍で、世界中が混乱に陥り、本会としても過去にない大打撃を受けました。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。
- ◎ この現状を踏まえ、今年の短期特別課題は、『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。一種類を四ヶ月交替で掲載していく予定です。
- ◎ 多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。
- ◎ 創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★他人：（書体Ⅱ楷書）

「和顔愛語」は経文に出ることばで、仏像を拝する時、諸仏諸菩薩のお顔には「和」とでもいう気分がにじみ出ている。内心のあらわれ、人格の流露で、心がとげとげしていれば、自然に顔もどぎつくなる。

また、「愛語」は、菩薩の四摂法の一つに数えられているほどで、優しい言葉というものは相手に好感を与えるばかりでなく、第一、当人のあと口がよいのである。孔子も「怒りをうつす勿れ」と論語で教えている。

〔作品の出し方〕

- ▼ 今回は硬筆部だけに限ります。全員本会級位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。
- ▼ 硬筆ならば用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。
- ▼ 出品制限の対象とはなりません。
- ▼ 事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。
- ※ 不明な点は無記入でも結構です。
- ▼ 優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。
- ▼ 月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様をお願いします。

一般部規定課題

締切り 2月22日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔変換例〕

〔読み〕旅というのは 時間の中に純粹に 身を委ねることだ
(草) 旅 (行) 間 (行) 純 (行) 粹 (草) 粹 (行) 身

※行草体課題としては、適度に行書と草書を交えて書きます。いろいろ試してみても表現の幅を広げましょう。

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

旅といふのは
時間の中に純粹に
身を委ねることだ

おく むら のぶ ゆき 書
奥 村 暢 之

▷用具＝自由(黒色に限る)

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕

地位 高程 足元 滑易

足	高	人
元	く	間
が	な	は
滑	る	地
り	程	位
易		が
い		

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城

▷用具＝自由(黒色に限る)

▷用紙＝本会級位用紙

◆3月課題予告(行書)
真の贅沢とは
唯一つ それは
人間関係の贅沢だ
▼教範・書範Ⅱ楷書
▼師範Ⅱ行草または草書

★旅と…(書体Ⅱ行草または草書)
福永武彦(一九一八～一九七九)
小説家
せわしい日常の中にあつては、のんびりと時間に身を委ねることは難しいことです。
自分の意志で自由に時間を使うために旅に出たならば、そこには、あふれんばかりの時間があることを実感できるのではないのでしょうか。

◆3月課題予告(楷書)
努力によって
得られる習慣
のみが善である

★人間は…(書体Ⅱ行書)
タキトウス(五五～一二〇頃)
古代ローマの歴史家
人間は地位が高くなり、権力や財力を持つと油断ができて、周囲に渦巻く誘惑や落とし穴に陥りやすくなります。いつの時代にも注意しなければならぬことで、日常生活でも順調な時こそ慢心にならず、気を引き締めて行動したいものです。

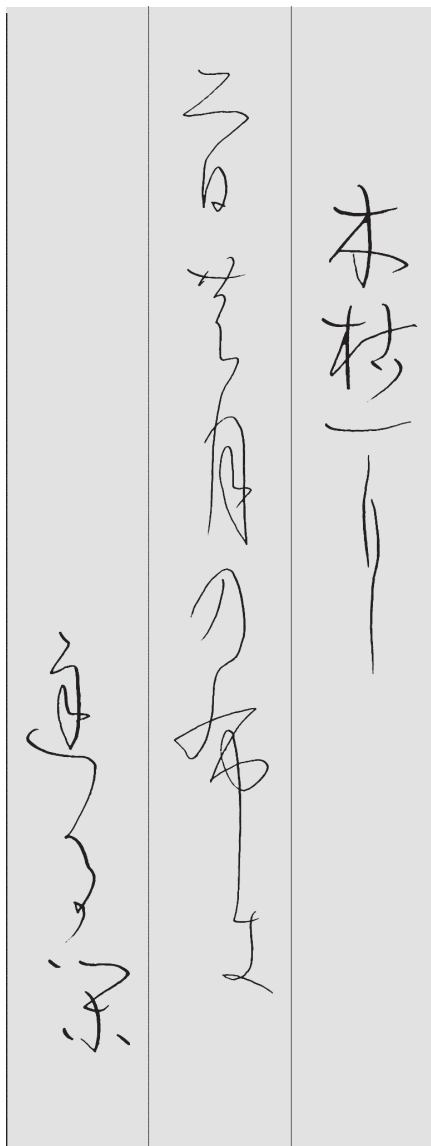
一般部かな課題

締切り 2月22日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

木枯に二日の月の吹き散るか



田中貴光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

木枯に二日の月の吹き散るか



田中貴光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

木枯に二日の月の吹き散るか

(山本荷兮)

〔句解〕木枯らしが吹きすすんでいる。空にか細く二日の月がかかっている。木の葉を残らず吹き散らしてしまう木枯らしによって、あの月まで吹き散ってしまわないだろうか。

〔鑑賞〕『桃の実』(元禄六年刊)に「荷兮をこのごろ世に「こがらし」の荷兮」と言へるは、「木枯に二日の月の吹き散るか」といへる句よりいふ事なるべし。「二日の月」の主になりたる故にや」と評判の句であった。細い月の代表として人びとは三日月を挙げるが、それより一層細い「二日の月」を詠んだところが人びとに賞されたのであった。

〔古筆参考〕

木枯に二日の月の吹き散るか

〔解説〕「木こがらし」は、気脈を使って、「あやめ」と続けなくとも、流れるように書きましよう。

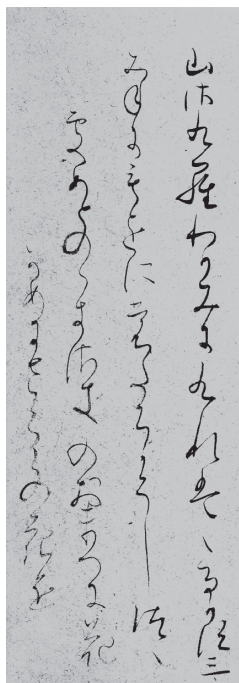
◆3月課題予告

梅一輪一輪ほどの暖かさ

(服部嵐雪)

〔古筆参考〕

せき と ほん こ きんしゅう
関戸本古今集

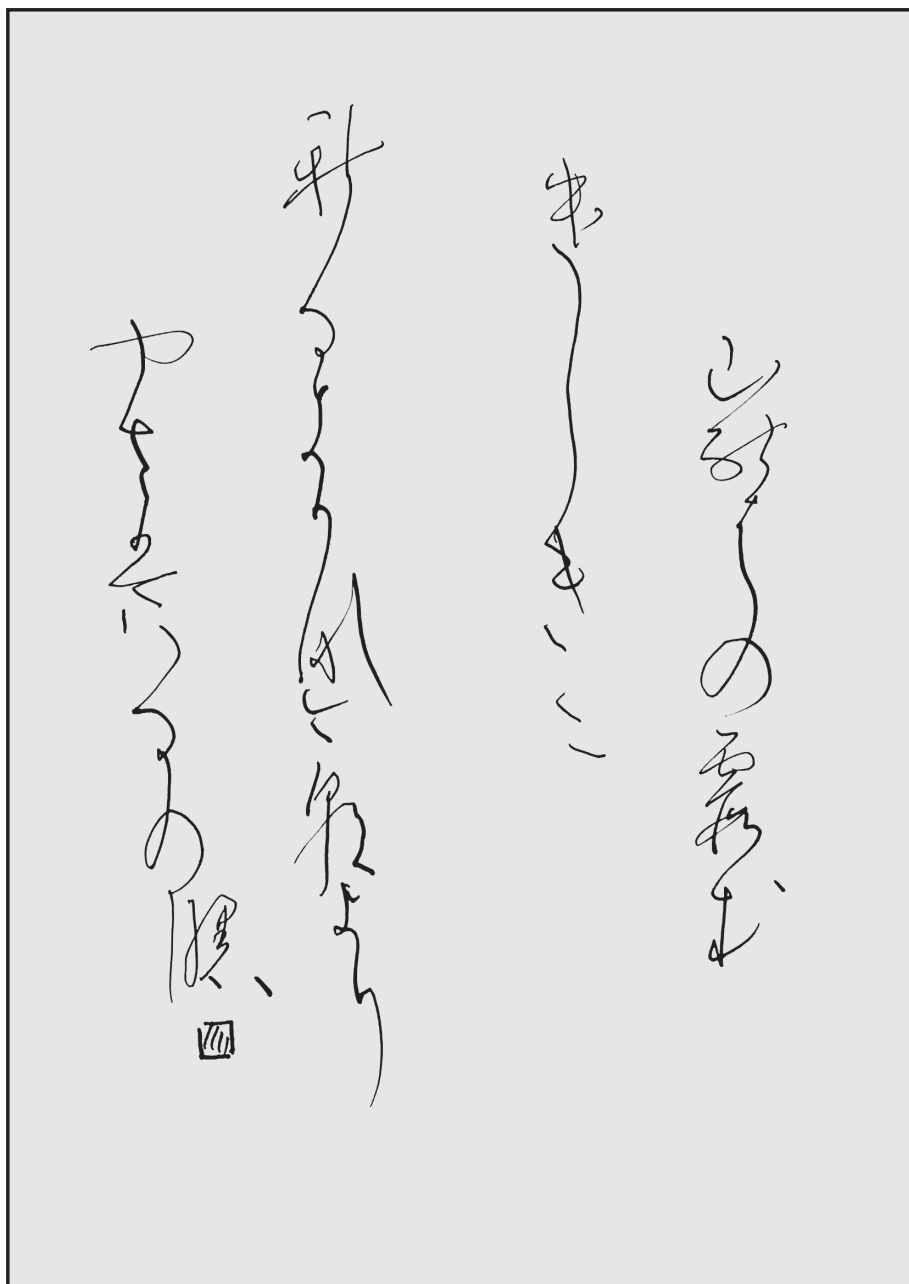


山佐九羅ざくらわがみにくれば盤九はるがすみ
みねにも年尔毛もたたくしつゝ
そめど處のゝきさきのおまへに花

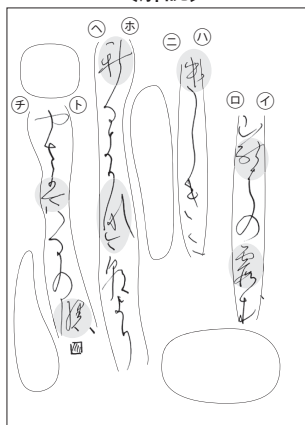
がめ可尔にさくらの花を

締切り 二月二十二日（必着）

築瀬舟香書



〔解説〕



山の端能者の霞造むけしき二新にしるきかな
今朝よりやさ盤八は春の曙

〔歌意〕山の端の霞む様子に春の立つことがはつきり知られる事だ。さては今朝からは待ちこがれた春の曙をむかえる事になるのだ。

〔出典〕山家集（新潮日本古典集成）

『関戸本古今集とは』
関戸本古今集は全て同一人物の書いた作品でありながら、決して同じ書きぶりではない。

① 運筆の緩急 ② 運筆の抑揚
この2点が現在の表現の多様性につながっている。

用筆法と線についても
① 逆筆 ② 順筆 ③ 直筆 ④ 側筆
などが巧みに使われている古筆である。

- ①と②、③と④、⑤と⑥、⑦と⑧、⑨と⑩、⑪と⑫、⑬と⑭、⑮と⑯、⑰と⑱、⑲と⑳、㉑と㉒、㉓と㉔、㉕と㉖、㉗と㉘、㉙と㉚、㉛と㉜、㉝と㉞、㉟と㊱、㊲と㊳、㊴と㊵、㊶と㊷、㊸と㊹、㊺と㊻、㊼と㊽、㊾と㊿、それぞれ呼吸。
- 余白大切。
- 密の動きが面の影色を作る。

◆ 3月課題予告

山里は霞みわたれる景色にて
空にや春の立つを知るらん

締切り 2月22日(必着)

受験勉強は順調に進んでいますか。
来週は福岡へ出張の予定ですので、
太宰府天満宮に立ち寄って、合格
祈願の御守りを頂いてきますね。
ご当地名物で有名な、うその餅も
一緒に届けますのでお楽しみに。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

受験勉強は順調に進んでいますか。
来週は福岡へ出張の予定ですので、
太宰府天満宮に立ち寄って、合格
祈願の御守りを頂いてきますね。
ご当地名物で有名な、うその餅も
一緒に届けますのでお楽しみに。

横 書 き 課 題

お 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

営業として初めて使われた電車は
現在明治村で運転されている。

岐阜県郡上市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

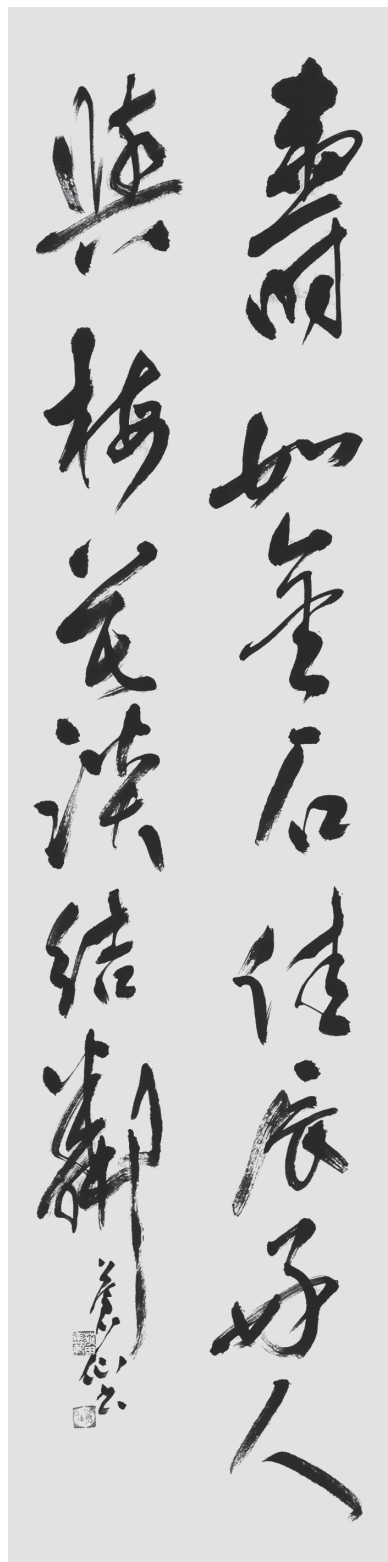
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 二月二十二日（必着）

半切（一二六cm×三五cm）

荻田蒼仙書



じゅはきんせきのことくかしんよく
壽如金石佳辰好

ひとはばいかとたんにりんをむすぶ
人與梅花淡結鄰

そうへいちろう
曹秉鈞

〔大意〕命の長いことは金石のようで佳節に逢って好く。人は梅の花と清らかな縁を結んであい親しんでいる。

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

昨年はコロナ禍の影響で多くの
書道展が中止となり残念でした
今年は少しでも多くの展示会が
開催される事を願っております

細谷和歌子

書 香 梅 藤 伊

半紙（334mm×240mm）

〔条幅解説〕

「アレ！」と言われるような新鮮な作を目指しても、やはり駄作に終わった事を反省し、今後古典勉強に心して：呼吸の長いそして厚みのある作を目指します。起筆での穂先の捻れによる線の多様を学んで下さい。

・昨年はコロナ禍の影響で多くの書道展が中止となり残念でした
・今年は少しでも多くの展示会が開催される事を願っております

（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績（天位～5等）は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(行書)

須田一葉書

〔解説〕

晩

雪

間

花

梅

晩雪間
花梅

晩雪間花梅

〔大意〕おそく降った雪が梅の花にまじって枝についている。

◎文房四宝—墨について

墨は大別すると固形墨、液体墨、又和墨、唐墨などがある。固形墨の良さは磨り方により、多様な墨色を築しめる事である。力を入れず、やさしく磨ると粒子の細かい良い墨が得られる。又、古い墨ほど珍重されている。

固形墨を大量に磨るには時間がかかるため、電動の磨墨機がある。それほど磨墨の意味は大きい。墨を磨る時間も大切にしたい。心を落ち着かせ、墨の香りにも癒されるように思う。

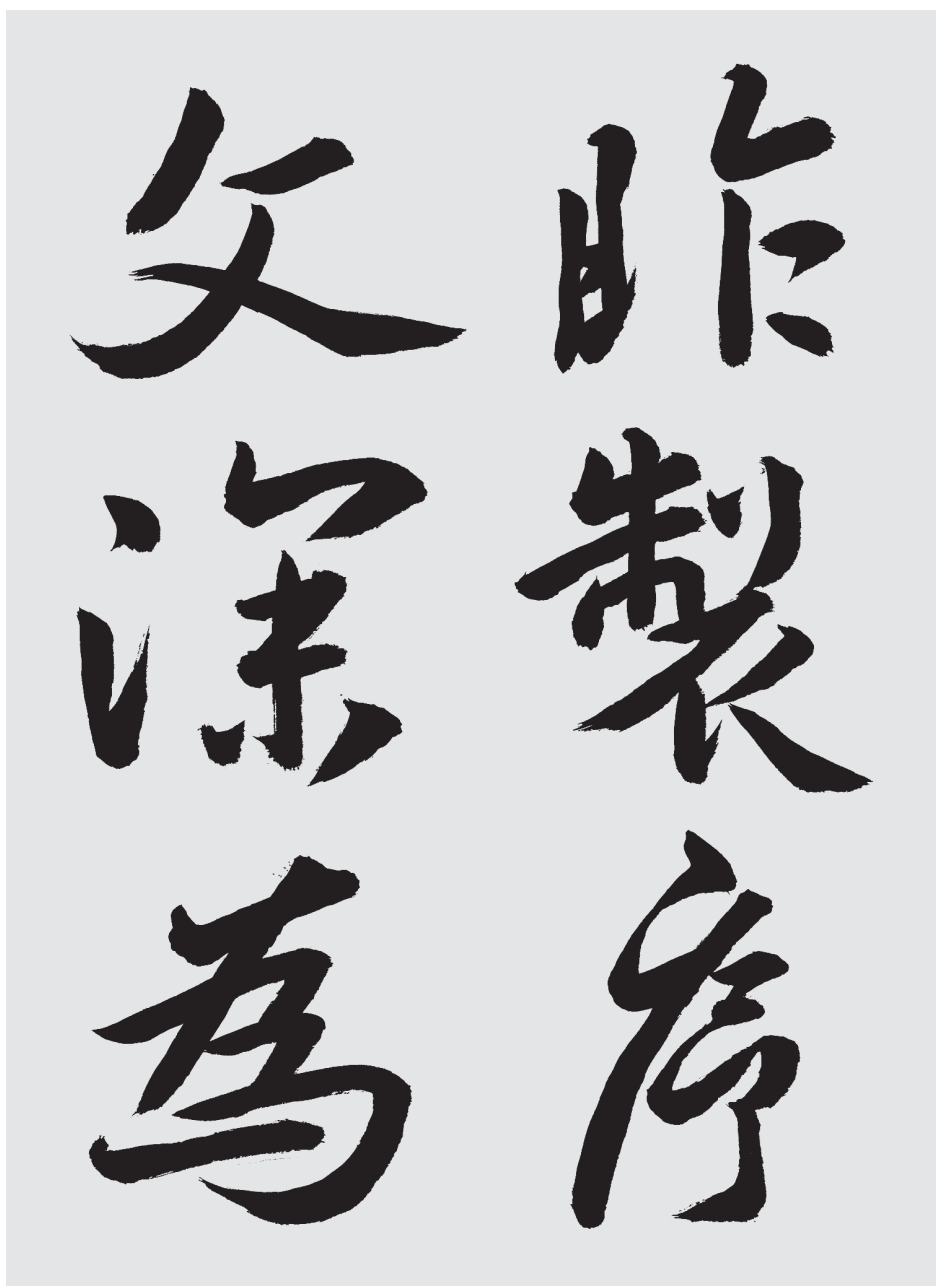
※行書は楷書に比べ、一点一画に力を入れ過ぎないよう軽やかに書きましょう。

◆3月課題予告(楷書)

桃花帯
雨濃

準初段から師範まで

奥村暢之臨



昨
製
序
父
深
為

〔出典〕集字聖教序（六七二）
〔筆者〕王羲之法書より集字
〔読み〕昨、序文を製し、深く（鄙拙
と）為す。

〔解説〕

◆用筆を考える

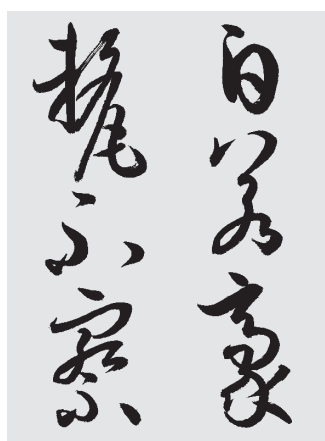
集字聖教序の筆使いを考える上で、
まず八面露鋒があげられる。
これは単に「藏鋒」「露鋒」で、羲
之の書法が全て解決できるわけではな
く、各線の起筆の角度を細かく丁寧
に分析すると、時には穂先が線の右に、
時には左に、あるいは中央にと、変幻
自在に現れていることが理解できる。
これにより筆力ある強い線を生みだ
すことができるのである。

①と②の対比

直と曲のバランス

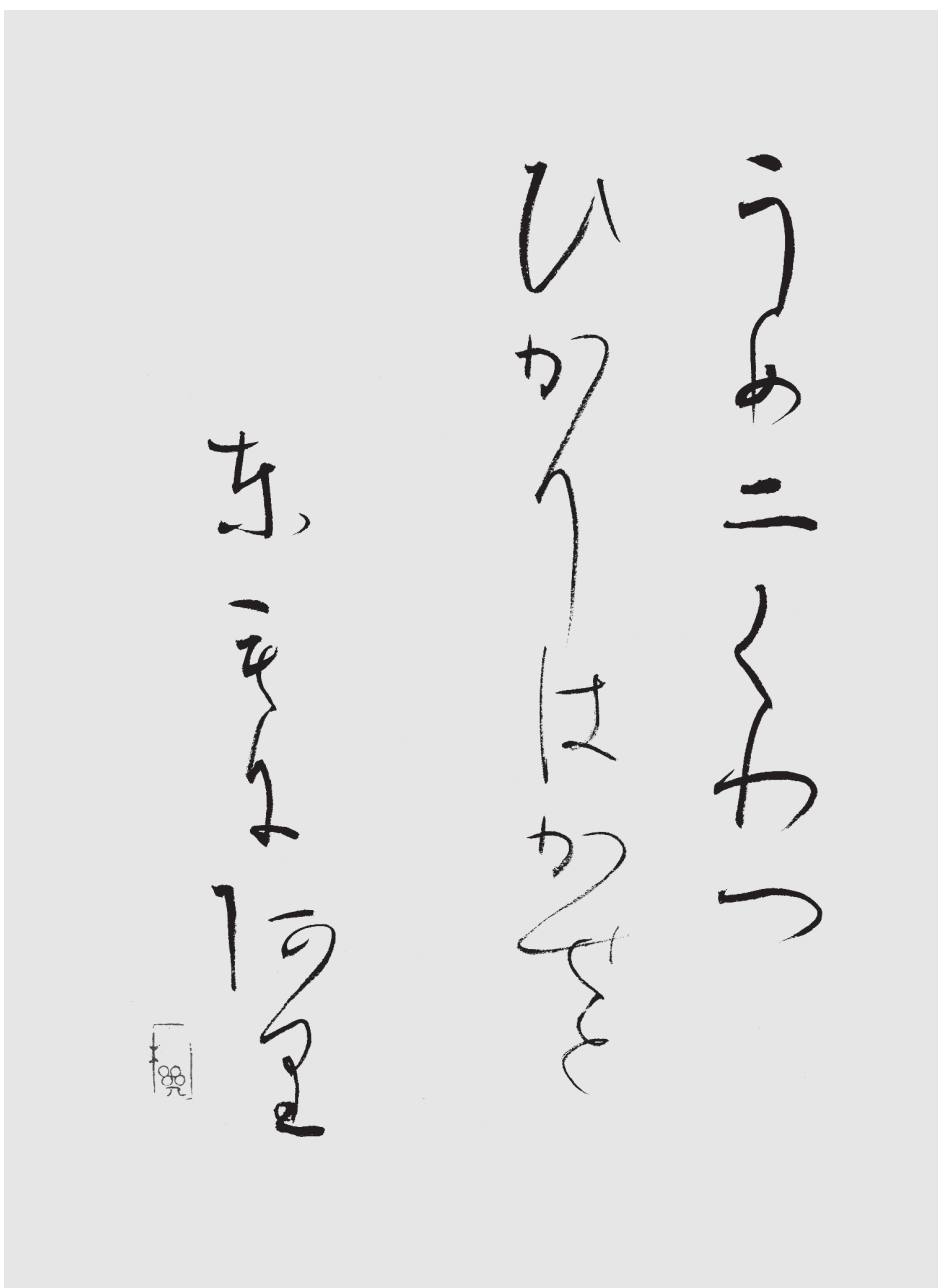


◆3月課題予告



新入から1級まで

浅井機山先生書



梅^{うめ}二月^{くわつ}ひかりは風^{かせ}とともにあり^{東毛尔阿里}

西島麦南「雲母同人句抄」

〔句意〕

ようやく梅の咲く二月となり、風はいささか光をおびるようになった、の意。早春の梅林の明るさをとらえた句。

◆3月課題予告

春蘭^{しゅんらん}や雨をふくみてうすみどり

〔解説〕

まず全体を見ると、前2行の行頭を揃えています。3行目は行間を開け、行頭も下げます。

次に行尾を見てみましょう。2行目はだいたい下げ、3行目は2行目より更に少しだけ下げています。

それでは、1行1行見ていきましょう。

「うめニくわつ」、「う」は、力強く書きだし、書き終えたら反動を使って連綿し「反動法」、「め」の第1画を書きます。「二」も、力強く書き、「く」は、「うめ」の流れを受けて書きます。「わ」「つ」は同じように書きます。もちろん多少変化するように書いた方がいいです。

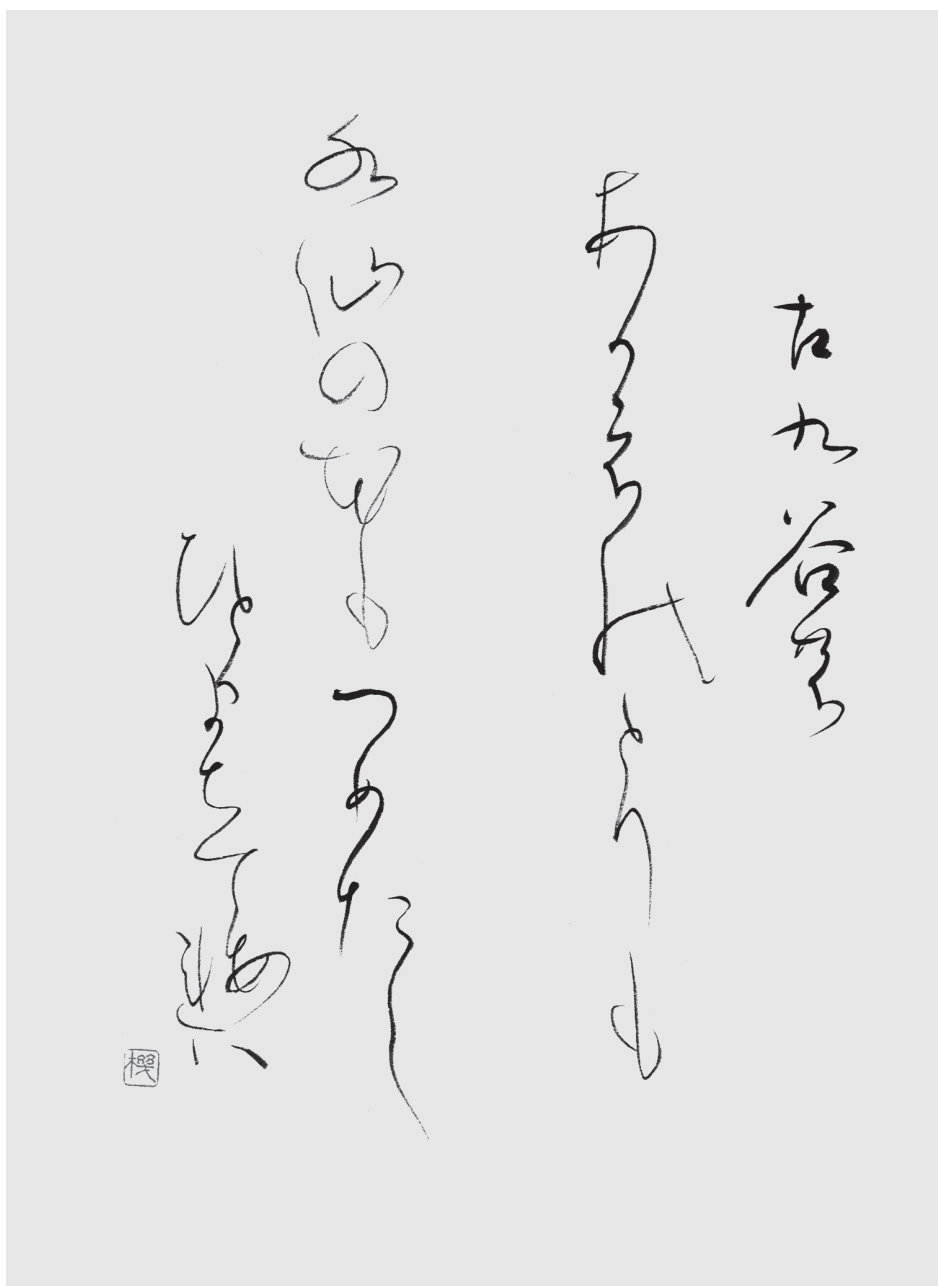
「ひかり…」、「ひ」は、右の「う」と高さを揃えるようにし、字形が不安定にならないよう気配りします。「かり」の連綿線は、「か」の点を打ち終えたらすかさず「直線で連綿」します。下の「か」は右回り、「せと」は左回りの連続と思って書くとうまく書けます。

「東毛尔阿里」、「東」は、いい位置を探してから第1画を書き出します。

「毛尔」は、字幅を狭くしてわずかな流れを作り、「阿」で思い切って字幅を広げて1行の変化を作ります。「字幅の広狭の変化」です。「里」は、流れを一直線にせず、少し右へ「中心移行」します。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



古九谷農あ可え能とりの赤絵の鳥も水仙ひとまの花もつめたし人待ちてあれば連八

花もつめたし人待ちてあれば

〔歌意〕

古い九谷焼の赤絵の鳥も水仙の花も、私には冷たくしか感じられない。遠く離れたあなたの帰りばかりを待っている心には。

◆3月課題予告

桜花夢うつつしるくもか現うつか白雲しろくもの

たえてつれなき峰の春風

九条武子くじょうたけこ

〔解説〕

まず全体を見てみましょう。右2行と左2行の、右左2つに分けられます。

とはいえ、真ん中が大きく空いて右左の大きな塊に区分されるというのではありません。空いているとはいえ、やや広めで響き合いは多少感じられるというところです。

さて、1行1行見ていきましょう。

「古九谷農」〈放ち書き〉の漢字で書き出し、「谷農」は連綿して、下に余白を残して1行を終えています。

「あ可え能」…「あ」をゆったり大きく書き出し、「可え能」と連綿していきます。ここで一旦一呼吸して、「とり」で上の流れを受け、更に一呼吸して、「も」で上の流れの全体をしっかり受け止めます。

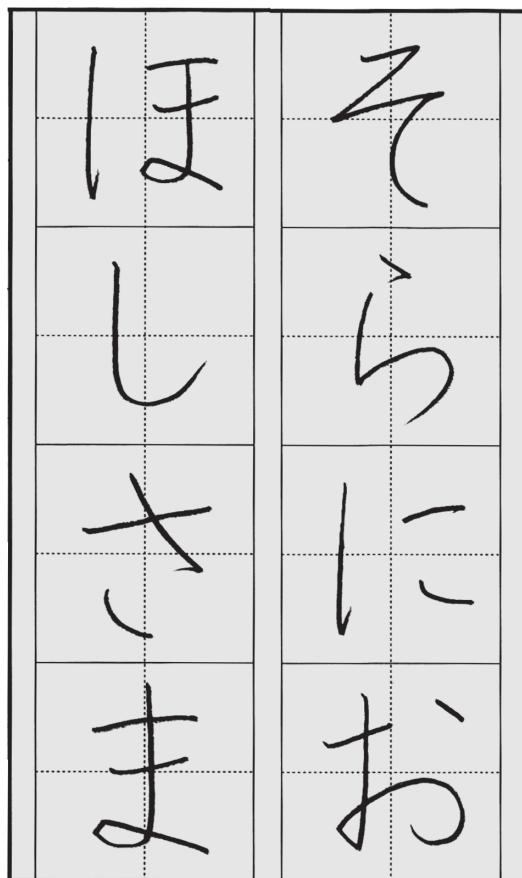
前2行を見つめながら、

「水仙の花も…」放ち書きの漢字で「水仙」、仮名で「の」、漢字で「花」と書いて、「花」の最後の点から「も」へ連綿します。「も」は上の4文字をしっかり縦線で流れを受け、墨継ぎします。すばやく今まで書いてきた所を把握し、「つめたし」で「し」は、ゆっくり書いて右行の「も」より下げ、半紙の下端の空きを捉えます。この行が1番長く全体の柱の役目を果たします。

「ひとまちてあ」、第1、第2行の間より狭めて書き出します。「ひと」は〈合字〉です。

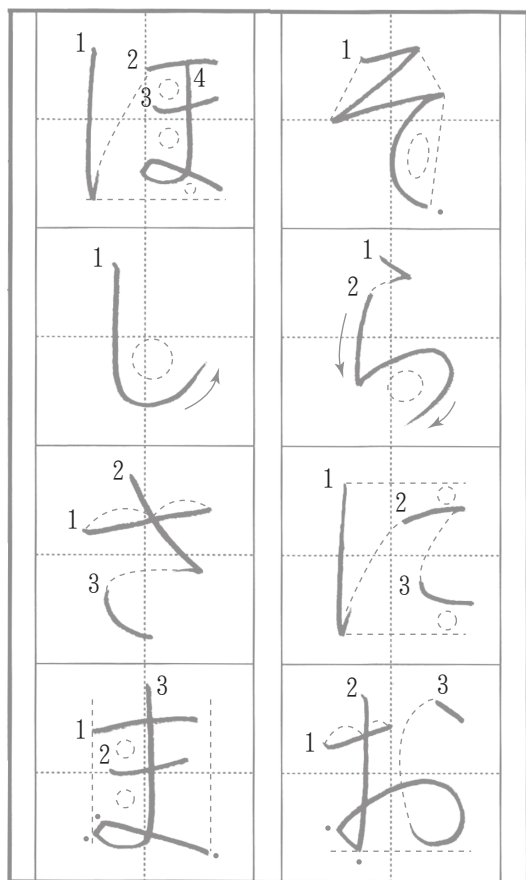
「連八」、最後にキュッと引き締めます。

よ
う
年



★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかき)

小
一
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準初段以上

新入1級



幼年～小三年まで 三宅容玉書

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

め	弟 (おとうと)
て	が
た	は
つ	じ

新入1級

の	て	弟
力	自	が
で	分	は
立	一	じ
つ	人	め

小二年
準初段以上

き	坂 (さか)
始 (はじ)	の
め	雪 (ゆき)
る	か

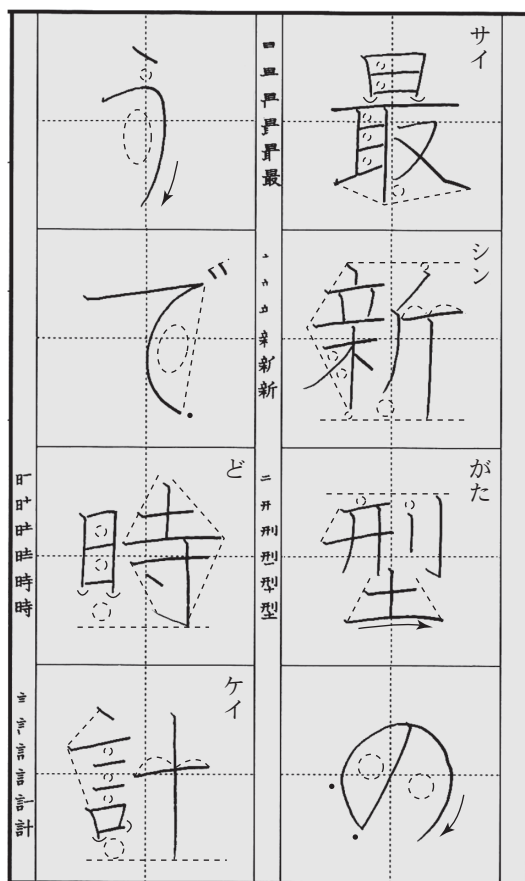
新入1級

き	坂	朝
を	道	早
始	の	く
め	雪	か
る	か	ら

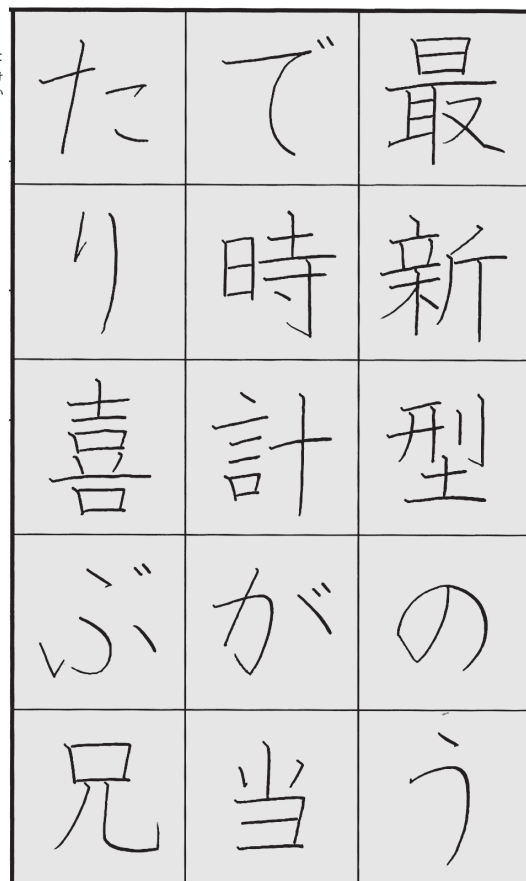
小三年
準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)



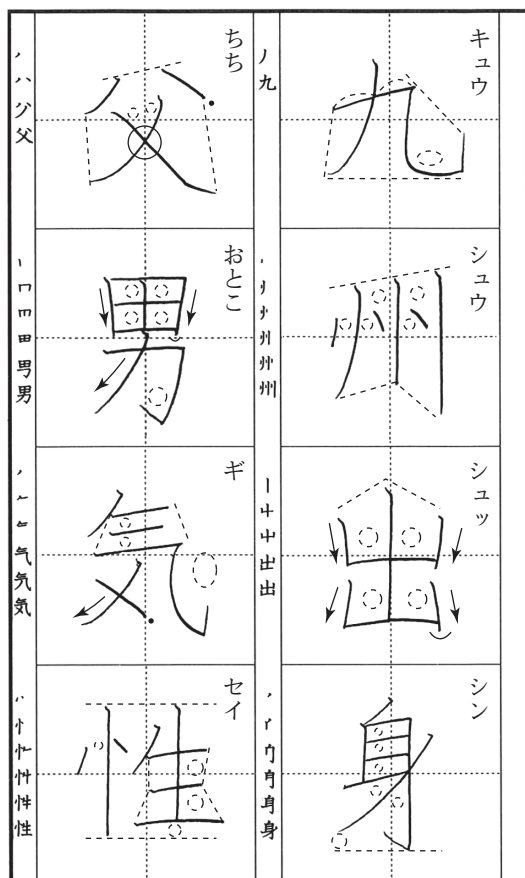
※時計＝単語としてこのように読みます。



小四年

準初段以上

新入1級



解説(よく見て習いましょう)



小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小四年以上 岡嶋桂川書

〈用具〉自由(黒色に限る)

キ	ヒ
期	非
ホ	ジヨウ
保	常
ゾン	ジ
存	時
シヨク	チヨウ
食	長

解説(よく見て習いましょう)

を	期	非
確	保	常
認	存	時
す	食	の
る	品	長

小六年

(全員)

実	が	人
の	整	材
福	つ	と
祉	た	設
を	充	備

中二・三年

(行書)

た	代	母
故	を	が
郷	過	幼
の	ご	少
山	し	時

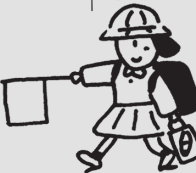
中一年

(行書)

▼小三年以下の課題

さ さ き けい せん
佐 々 木 恵 泉 書

わ	よ	右	手	横
た	く	と	を	だ
り	見	左	上	ん
ま	て	を	げ	歩
す	か		て	道
	ら			



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 2月22日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

おお はら けい えん
大 原 啓 園 書

体	道	通	愛	寒
も	を	い	犬	い
温	足	慣	と	早
ま	早	れ	散	朝
り	に	た	歩	に
ます				

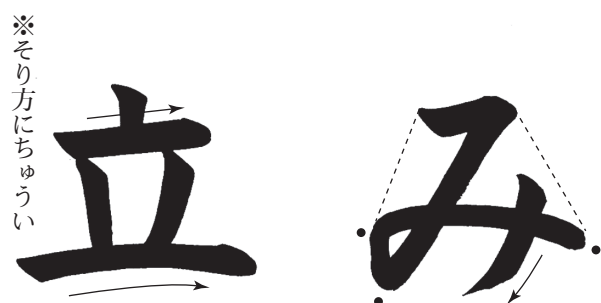
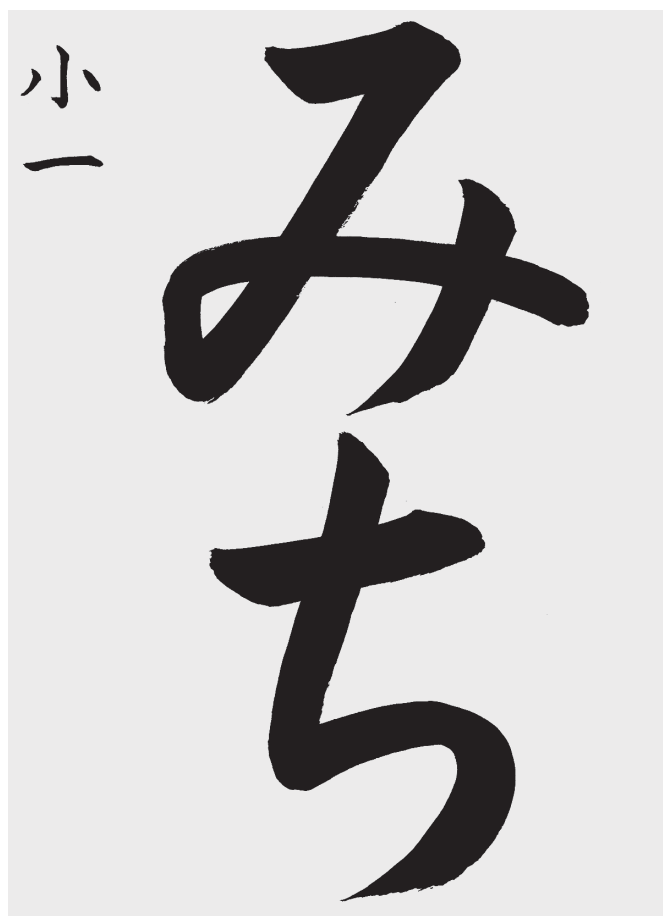


◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





小五
九州出身

雪かき
小三

計
長めに

雪

出

き

身

時

小四
時計で

小三〜小五年
水野碧友書

中三
充福
実社

小六
保長
存期

小六／中二・三年
玉樹小華書

中一
時幼
代少

代 長
福 期
社 時

※行書は線の連なりや気脈に注意して書こう。